

大学名	北海道大学		
University	Hokkaido University		
外国人研究者	芮 真慧		
Foreign Researcher	RUI ZHENHUI		
受入研究者	池田 証壽	職名	教授
Research Advisor	IKEDA SHOJU	Position	Professor
受入学部/研究科	大学院文学研究科		
Faculty/Department	Graduate School of Letters		

<外国人研究者プロフィール/Profile>

国籍	中国
Nationality	China
所属機関	遼寧大学
Affiliation	Liaoning University
現在の職名	講師
Position	Lecturer
研究期間	2015/7/22~2015/10/19
Period of Stay	2015/7/22~2015/10/19
専攻分野	言語文学
Major Field	Linguistics and Literature



外国人研究員研究室にて

<外国人研究者からの報告/Foreign Researcher Report>

①研究課題 / Theme of Research
漢字とその訓読みとの対応の歴史的変遷に関する言語情報学的研究
②研究概要 / Outline of Research
本研究は申請者の博士論文の研究内容を発展・拡大させたものであり、漢字とその訓読みの対応を言語情報学的な研究方法を用いて考察することで、その歴史的変遷を明らかにした。主に室町時代の『節用集』『和玉篇』『落葉集』、江戸時代の『書言字考節用集』『増続大広益会玉篇大全』『和英語林集成』、明治時代以降の『大言海』『大字典』『和英袖珍新字彙』に関する先行研究の収集と考察を行い、その「常用字」「常用訓」の判断方法を考える。室町時代以降の「常用字」と「常用訓」の定着度を検討したうえで、漢字とその訓読みを体系的に再考察する。
③研究成果 / Results of Research
研究成果は以下のようにまとめられる。1. 本国にはない『節用集』『和玉篇』『落葉集』『増続大広益会玉篇大全』などの関連資料が入手できた。2. 2015夏季北大特別セミナーに参加し、人文学におけるデジタル技術適用についていろいろと学ぶことができた。3. 受入研究者である池田証壽先生の指導の下に発表論文を完成させ、2015年9月1日に国立国語研究所開催の「第8回コーパス日本語学ワークショップ」で発表を行い、多くの先生方からコメントをいただいている。4. 富山大学の小助川貞次教授、森賀一恵教授を訪問し、今後の研究の方向性などについて重要なアドバイスを受けた。
④今後の計画 / Further Research Plan
帰国後、滞在期間で得られた資料と成果を基に漢字とその訓読みの対応関係に関する基礎データを完成し、コーパス、電子化テキストを積極的に利用して言語情報学的な研究方法で、研究論文をより練り上げたいと思う。また、これからは研究成果をどのように日本語教育の現場に取り入れるかを考えながら研究を行い、中国での日本語教育に役立ちたいと思う。

<受入研究者からの報告/Research Advisor Report>

①研究課題 / Theme of Research

漢字とその訓読みとの対応の歴史の変遷に関する言語情報学的研究

②研究概要 / Outline of Research

本研究は、漢字とその訓読みとの対応を言語情報学的な研究方法を用いて考察することで、その歴史の変遷を明らかにすることを目指した。主に室町時代の『節用集』『和玉篇』『落葉集』、江戸時代の『書言字考節用集』『増続大広益会玉篇大全』『和英語林集成』、明治時代以降の『大言海』『大字典』『和英袖珍新字彙』に関する先行研究の収集と考察を行い、その「常用字」「常用訓」の判断方法を検討した。さらに、室町時代以降の「常用字」と「常用訓」の定着度を検討したうえで、漢字とその訓読みを体系的に再考察する。

③研究成果 / Results of Research

まず、中国では入手と閲覧が困難な資料である『節用集』『和玉篇』『落葉集』『増続大広益会玉篇大全』などの関連資料に調査を進め、その写真版、コピーを入手し、研究の基礎とした。ついで、2015年8月に開催された特別セミナーに参加し、人文情報学研究所の永崎研宣研究員から、最近の人文情報学におけるデジタル技術適用について、研究動向とスクリプト言語phpについて研修を行った。それらを踏まえ、調査データを取りまとめて、発表論文を完成させ、2015年9月1日に国立国語研究所開催の「第8回コーパス日本語学ワークショップ」で発表を行った。また、富山大学の小助川貞次教授、森賀一恵教授を訪問し、それぞれ漢文訓読研究、中国語学研究的観点から、今後の研究の方向性などについて重要なアドバイスを受けた。言語情報学的研究を中心に、漢文訓読研究、中国語学研究的観点からの検討も加え、一定の成果をあげた。

④今後の計画 / Further Research Plan

今回の研修は、言語情報学的観点から、漢字とその訓読みとの対応を検討することにあつたが、国立国語研究所開催のワークショップでの発表を通して、関連研究者との交流を深めることが出来た。この交流の成果は、帰国の後に言語情報学的研究を行う上で、その土台をつくるものであつた。また、より専門的な研究としては、富山大学の小助川教授から、世界的視野から見た漢文訓読とその歴史に関する情報提供、また、富山大学の森賀教授からは、中国語学的観点から、特に中国語を母語とする日本語学習者の漢字学習に関して実践的な情報提供を受けた。両教授は、外国人研究者が学部時代に富山大学に留学した時の恩師である。こうした成果は、いずれも今後の研究と教育に活かされるものであり、今後の指導者としての交流を続ける基礎を固めることができた。



人文・社会科学総合教育研究棟にて



易林本 節用集